

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	台風の接近に伴う豪雨で土砂崩れが発生し家屋1階に土砂が浸入し2階の2名が自力脱出不能となった救助現場に出場した。現場周辺は可燃性ガス臭が漂い、土砂が堆積した軟弱地盤のため極めて困難な救助活動を強いられた事例。
3. 体験した事例の中心的要素	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂崩れの影響でLPガス配管から大量のガスが漏洩しているものの土砂により接近には長時間を要するため必要な安全対策がとれず危険な状況下での活動を強いられ要救助者および隊員に過大なストレスを与えた。 ・軟弱地盤のため3連梯子が安定せず昇降の際にバランスを崩しそうになった。
4. 体験した事例の原因・理由	ガスの漏洩、土砂災害等2次災害発生危険が極めて高い救助現場で人命救助を急ぐあまり2次災害の発生防止措置を疎かにしたことが原因の一つに考えられます。ガス漏洩の防止または希釈、土嚢等による軟弱地盤の改良もしくはロープ等による3連梯子以外の救出方法の選択等、長時間を要しても安全対策を施すべきであったのではないのでしょうか。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	<p>行動の意志決定に問題があった。</p> <p>行動の実行に問題があった。</p>
------------------	---

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成25年9月16日 午前7時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外：土砂崩れが発生した住宅地
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。 回答者が、他人を負傷させしそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	墜落・転落、崩壊・倒壊(に巻き込まれる)、爆発・破裂、退路の消失、寸断
7. 事例体験時の活動	救助現場活動初期・中期・終了時・撤収
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	資機材準備・撤収、救出準備作業、進入・退出、人命検索・救出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[34]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[8]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[28]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[3]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[25]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[3]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者B、C	2階の要救助者に接触、救出するため3連梯子の昇降時にバランスを崩しそうになった。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。資機材の操作がうまくいった。個人装備が適切だった。周囲の視界が確保できていた。指揮者が適切に指示した。後方からの監視の目が行き届いていた。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

台風により所轄管内に同時多発的に災害が発生しており初動時は指揮隊が確保できず救助隊のみが出場し活動人員が不足していた。自然災害の発生頻度が低い事や小隊の平均年齢が30歳と若く同様事案の現場経験が不足していた事がヒヤリハットに影響したと思慮される。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について



県道より撮影

三連はしご架梯位置

